

(議題3)

生涯学習推進委員会における今後のテーマについて

1. これまでの経緯

今後、生涯学習推進委員会において検討するテーマについて検討するにあたり、委員よりテーマの提案を事前にいただいた。

<委員からあった提案>

- ・社会教育関係団体や公民館等で活動している団体からみた課題とその検証
- ・生涯教育の充実（市民大学の充実改変なども含め）
- ・参加しやすい生涯教育事業の在りよう
- ・行政情報の有効活用

2. テーマの集約

委員の提案や市の課題等も含め、以下の2点に集約した

①社会教育関係団体の育成

平成31年度より社会教育関係団体の規程が見直されたことによって、大幅に認定される団体が減少することが見込まれる。

社会教育関係団体の減少は、地域の生涯学習や社会教育の場の減少にもつながりかねない。

しかしながら、市の社会教育関係団体の制度が形骸化してきていることや自分たちの定期的に行っている活動を地域へ還元する機会（学習機会の提供など）を積極的に行っている団体と一部の団体の「施設使用料の減免」という市の支援のみを期待したと思われる団体との活動の差が生じてきてしまっている。

そのため、社会教育関係団体のあり方や支援方法などを検討し、多くの社会教育関係団体が地域で活躍できるようにしていくことが必要となってきた。

②学習情報の集約と提供のあり方

現在、生涯学習に関する情報（講座や事業）や社会教育関係団体及び公民館で活動しているサークルの情報の発信が市民に向けて乏しい状況である。

学びたい側と教える側のマッチングができる情報提供もできていない状況であり、また、団体が活躍できるような場の支援としての情報発信も乏しい状況である。

今後の「人生100年時代」を一人一人が元気に活躍し、安心して暮らすためには、生涯学習社会は重要であり、学ぶ場や団体の情報の充実が必要となってきた。

3. テーマの設定

現在、学びの場は行政から民間、市民団体までさまざまな選択肢がある状況のなか、身近に学べる場のひとつとして「社会教育関係団体」が提供する学習の場がある。

しかしながら、社会教育関係団体においてもさまざまな問題（高齢化、他団体との交流の場の不足、活動の場の確保、会員の育成など）があり、市民が身近に学べ

る場が少なくなりつつある。

市民が多様に学べる場の確保のためにも、社会教育関係団体の充実は不可欠であり、市はその育成をすることが重要になってきている状況である。

また、そのためには必要な情報をどのように発信するかまたは集約するかということも大切である。

このことからテーマについては

「社会教育関係団体の育成のためのサポートのあり方について」

というテーマを進め、その中で社会教育関係団体の育成だけでなく、生涯学習社会の情報の集約や提供のあり方も一緒に検討していくようにする。